

一主婦からの新発田市政通信

皆様これで良いですか

発行者 青木三枝子（市政を考える会）

新発田市御幸町 3-1-21

TEL 0254-26-8334

平成 25 年 12 月 2 日 第 11 号

1 市長への手紙の返事を頂きました

通信 4 号に私の市長への手紙の全文を掲載しましたが、その手紙を出した日より 2 ヶ月以上たった 11 月 13 日付けで返事をやっとう頂きました。以下、市長への手紙に対する回答 3 点に関し私の考えを述べます。

まず、第一として、「坪川氏の想いは場所が決まるものではなく、場所が移ってもしっかりと理念を引き継ぐ事が大切である」との回答でした。理念さえ引き継げば、場所は問題ではなく、現計画の駅前でよいという回答です。

私は、場所はとても大切と考えます。昭和 13 年に坪川氏の寄付によって竣工した図書会館は、現在、文化会館となっている場所にあります。ここは家老屋敷があった歴史ある場所と聞いています。この図書会館玄関横には坪川洵平翁頌徳碑がありました。坪川氏の寿令 80 歳並びに、坪川氏の寄付によって建設された図書館 25 周年、図書会館 15 周年を記念し建碑されたものです。この頌徳碑は、市の支援もありましたが、多くの市民の寄付や労力によって建碑されたそうです。文化会館建設時に、落谷小路記念館奥に移動されてしまいましたが、今はトトロの森として、子ども達に愛されている雄大な木々の中に堂々と立っています。文化会館や現図書館一帯は、歴史的にも、また坪川氏の精神や建碑された方々の想いを引き継ぐには最適な場所であり、他市にはない新発田市の特色を生かした図書館が出来ると考えます。この場所であれば現図書館も歴史資料館や蔵書保存場所として利用でき、土地購入や駐車場確保、そして施設維持管理の為に多くの税金を使う必要もありません。ここに新たな機能を兼ね備えた図書館が建設されれば、落谷小路記念館や新発田城を訪れた観光客、そして、生涯学習センター、市民文化会館、庁舎等の施設来訪者に利用して頂ける、大きな意味での複合施設としての機能を持つことになると考えます。

第二として、新図書館においても、坪川氏が図書会館の目的として述べられていた、人格の養成、知識の啓発、産業の振興という事を継承していくとの回答でした。この事も大切ですが、私は、これらの基礎となっている坪川氏のキリスト教者としての精神を重要と考えています。坪川氏は、郷土を愛し、新発田市の人々の為に働こうとする意志を持ち、私財の殆どを投じ、1 万年後の新発田市を見据えて図書館や図書会館を新発田市民の為に寄付されました。この坪川氏の崇高な精神こそが最も大切と考えます。市民との直接対話を避け、多くの問題がありながら補助金をあてにし拙速に事を進めている現状では、いくら素晴らしい図書館が建設されたとしても、坪川氏の精神や想いを引き継ぐことにはならないと思います。

第三として、「現市民は勿論、全国の新発田市出身者に寄付を募ってはいかがですか」という私の提案に対して、「合併特例債と交付金があるので現在のところ寄付金を募る予定はない」との回答で

した。寄付を募るのは、お金を集める目的ではありません。新発田市民は勿論の事、県内外の多くの方に坪川氏の事を知っていただく機会になる事、そして、より大切な事は、寄付をして下さる方々の、新発田を愛する想いを頂き、その想いを結集して図書館を建てる為です。その想いであふれた図書館を、歴史ある場所で始めることが出来れば、どんなにか坪川氏も喜ばれる事でしょう。

駅前複合施設建設や図書館建設について、建設場所を含めた再検討が必要と考えます。新発田市民全体で考えましょう。

2 街づくりのための私案

図書館は、現図書館横に建設し、駅は橋上化しましょう。駅を隔てて住む住民が、駅を拠点にして行き交うことができるようにしましょう。駅建物内には、学生の居場所作りのためのミニ図書館、観光案内所や物産館を設置しましょう。防災上や防犯上に問題があり、住民の生命に危険を及ぼすような地下道を廃止すれば、地上エレベーターより費用のかかる地下エレベーターは必要ありません。通勤・通学時間帯の混雑時に、自転車地下道を降りようとされる高齢者の方が地下道入り口で待つ必要もなくなります。駅橋上化のために長年陳情して来られた豊町の住民の方々がどんなにか喜ばれることでしょう。住民の命を守るための駅橋上化にこそ早急に補助金を使いましょう。駅前複合施設建設予定地活用は、民間の力をかりましょう。整備した上で車出入門を設け、誰でも駐車できる有料駐車場にしましょう。駐車場に併設し、レンタカーショップを設置すると、中心市街地のみではなく、合併した周辺地域をレンタカーで観光して貰えます。さらに、ここにバスターミナルを設置すると、駅前が交通結節点としての役目を果たすようになるでしょう。

あとは如何にして、駅前と中心市街地とを結び、人が歩く街にする事ができるかです。岐阜の恵那市の言葉に、「かんこう」という言葉があり、これを漢字で「工夫」と書くそうです。恵那市は市民の工夫「かんこう」によって観光客が増え、生き生きとした街になっていると聞きました。新発田市も、一方的な行政主導の街づくりに、そろそろ終止符を打ちましょう。行政が推進役となり、市民の工夫を引き出してはどうでしょう。駅前複合施設基本設計ワークショップ参加者の意見やパブリックコメント（公募意見）の内容でもわかるように、一般市民には街を変える大きな力があると思います。

街づくりについて、もっと時間をかけて議論し、住みたいまち新発田、誇れるまち新発田にしたいものです。

現在ベストセラーとなっている國分功一朗著「来るべき民主主義」（幻冬舎新書）を読みました。通信を出し始めた自分の原点がそこにありました。おかしい事はおかしいと言い続けようと思っています。